精神看護学

【精神看護学の考え方】

精神看護学では、精神に障がいをもつ人のみならず、あらゆる領域で様々な健康水準、発達段階にある人を対象としている。それらの人々に対して必要な援助ができるよう、精神看護を展開するための基礎的知識と技術を学ぶ。

援助の中心となるコミュニケーションには、患者－看護師関係の影響が大きく、学生の自己理解と他者理解が重要となる。本講義では、精神看護の知識を身につけられるように、精神保健を支えるために必要な知識と態度も身につけ、精神に障がいをもつ人への基本的な技術を学習する。

〔　目的　〕

精神の健康の保持・増進、および精神に障がいをもつ人への看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。

〔　目標　〕

1．精神の構造と機能、成長と発達、そして精神の健康の概念について理解できる。
２．精神看護の展開される多様な場の特徴と援助の方法を学び、精神看護の果たす役割について理解できる。
３．精神障がいの分類とその特徴、精神に障がいをもつ人のアセスメントと看護介入について理解できる。
４．患者－看護師関係の成立とその後の展開について学び、他者理解と自己洞察ができる。
５．精神保健医療福祉の変遷と課題を歴史的、社会的、医療的見地から学び、看護師の役割と今後の課題について考えることができる。

【構成および計画】

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時間			
			1年	2年	3年	
精神看護学概論	1	30	1（30）			
精神疾病と障害に応じた看護	1	30		1（30）		
精神障害をもつ人の看護	1	30		1（30）		
精神障害者の事例演習	1	15		1（15）		
合計	4	105	1（30）	3（75）		

科目名	講 師		単位数	1
精神看護学概論		小泉 幸子 小森 うめの	時間数	30

科目目的　精神の健康と保持・増進、心の健康問題について理解できる基礎的知識を学ぶ。

科目目標　1. 精神看護の目的・対象の特徴と看護の役割について理解できる。
2. 心の発達と健康について理解できる。
3. 現代社会の問題と心の健康の関連について理解できる。
4. 精神保健福祉の現状と課題が理解できる。

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 精神看護の特徴	1)精神保健で扱われる現象 (1)精神障害と精神保健　(2)日本の精神保健医療政策と方向性 2)精神保健の保持・増進としての精神保健 (1)精神の健康とは　(2)精神の健康を支える要因 (3)ストレスマネジメント
2回	2. 地域精神保健	1)入院医療中心から地域生活中心へ 2)地域精神保健における第一次予防、第二次予防、第三次予防 3)リカバリーを機軸とした精神医療 4)障害者権利条約の批准
3・4回	3.「精神看護」の分野	(1)精神看護とは (2)精神看護の役割の広がり (3)精神看護の専門性
	4. 精神(心)の構造と働き	1)精神力動理論とその派生理論　2)深層心理学:欲動論 他
	5. 精神(心)の発達に関する主要な考え方	(1)エリクソン (2)ボウルビィ (3)マーラー、スターン (4)マズロー (5)ピアジェ
5回	6. 家族と精神(心)の健康	1)家族のストレスと県境状態のアセスメント 2)家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント 3)家族への教育的介入と支援
6回	7. 暮らしの場と精神(心)の健康	1)学校と精神(心)の健康　2)職場・仕事と精神(心)の健康 3)地域における生活と精神(心)の健康 4)ドメスティック・バイオレンス(DV)を理解するために
7～9回	8. 精神(心)の危機状況と精神保健 災害時地域精神保健医療活動	1)精神(心)の危機状況と精神保健 (1)危機、ストレスコーピング (2)適応と不適応、セルフマネジメント 2)現代社会と精神(心)の健康 3)現代社会の特徴・社会構造の変化と社会病理 4)災害時の精神保健医療活動
10～12回	9. 現代社会と精神(心)の健康	1)現代社会の特徴:社会構造の変化と社会病理 2)精神保健が関与する社会病理現象 グループワーク、発表
13・14回	10. 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿	1)精神医療の歴史 (1)諸外国と日本における精神医療の歴史と現在 2)精神障害をもつ人を守る法、制度 3)精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇
評価	筆記試験　課題レポート	
テキスト	新体系看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論/精神保健　(メヂカルフレンド社) 新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護　(メヂカルフレンド社) 看護実践のための根拠がわかる　精神看護技術(メヂカルフレンド社)	
備考	国立ハンセン病資料館 国立多磨全生園　見学	

科目名	講 師		単位数	1
精神疾病と障害に応じた看護		平川 博之 小泉 幸子　他	時間数	30

科目目的：　精神の障がいと看護の実践に必要な基礎的知識を学ぶ。

科目目標　1. 主な精神疾病とその 症状・治療について理解できる。
2. 主な精神症状、問題行動について理解できる。
3. 主な精神疾患に対する看護について理解できる。

講義回数	学　習　内　容	
1～8回	1. 精神疾患　障害の診断基準・分類	1)精神疾患の分類 2)DSM・ICD・ICF
	2. 主な精神疾患・障害の理解	1)主な精神疾患 (1)神経発達症群・神経発達障がい群 (2)統合失調症スペクトラム障がい (3)双極性障害および関連障がい群 (4)強迫症および関連症群・強迫性障がいおよび関連障がい群 (5)身体症状症および関連症群 (6)食行動障がいおよび摂食障がい群 (7)物質関連障がいおよび嗜癖性障がい群 (8)パーソナリティ障がい群 (9)認知症
	3. 精神疾患の主な治療法	1)薬物療法　　2)電気けいれん療法 3)リハビリテーション療法　4)精神療法
	4. 精神科的診察	1)診察　　2)一般検査・画像検査　3)心理検査
	5. 精神障がいをもつ人の抱える症状	1)意識障害　　2)知覚の障害　　3)思考の障害 4)感情の障害　　5)意欲・行動の障害　6)自我意識の障害 他
9～10回	6. 精神の病院・障害をもつということ	1)「精神を病む」とはどういうことか 2)精神障害を差別 3)精神障害をもつ人はどのようなことを経験し感じているのか 4)精神障害と共に生きる
11～14回	7. 主な精神障がいをもつ人への看護	1)統合失調症　　2)双極性障害および関連障がい群 3)強迫症および関連症群　4)アルコール、薬物依存 5)パーソナリティ障がい　6)身体症状症および関連症群 7)摂食障がい
評価	筆記試験	
テキスト	新体系看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論/精神保健（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社） 看護実践のための根拠がわかる　精神看護技術（メヂカルフレンド社）	
備考		

科目名	講 師		単位数	1
精神障害をもつ人の看護		小森 うめの 小泉 幸子	時間数	30

科目目的 :精神に障がいがある人の特徴を理解し、看護の実践に必要な基礎的能力を学ぶ。

科目目標 :1. 精神科看護の基本技術を理解できる。
2. 精神症状が対人コミュニケーションに及ぼす影響を理解できる。
3. 精神障がいをもつ人へのセルフケア援助のあり方を理解できる。
4. プロセスレコードを通して自己洞察することができる。

講義回数	学 習 内 容	
1～2回	1. 援助関係の構築	1)精神障がいをもつ人との「患者－看護師」関係の構築 (1)精神障がいをもつ人との信頼関係の基礎作り (2)精神障がいをもつ人とのコミュニュケーション (3)「患者－看護師」関係の発展・終結 2)看護場面の再構成 (1)プロセスレコードの活用とその意義
3～5回	2. 看護援助の基本構造	1)看護過程の展開 (1)アセスメント (2)看護診断(ストレングス) (3)看護計画 (4)看護計画の実施と評価 (5)記録
	3. セルフケアの援助	1)セルフケアとは (1)オレムのセルフケア理論 (2)セルフケア理論の適用
	4. セルフマネジメント(自己管理)	1)患者－医療者関係からみたセルフマネジメント (1)コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンス (2)服薬アドヒアランスを高める支援
6～9回	5. 精神障害をもつ人の地域における生活への支援	1)地域包括ケアシステム 2)地域生活への移行と生活支援
	6. 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際	1)地域生活支援 2)就労支援 3)家族への支援
10～13回	7. 事故防止・安全管理と倫理的配慮	1)安全な治療環境の提供 (1)病棟環境の整備と行動制限 (2)自殺・自殺企図・自傷行為 (3)攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム (4)災害時の精神科病棟の安全の確保 2)行動制限のある患者の看護 (1)拘束体験(演習)
14回	8. 精神保健医療福祉におけるチーム	1)精神科チーム医療と看護 保健師、精神保健福祉士、作業療法士、ピアサポーター 臨床心理士、薬剤師、セルフヘルプグループ
	9. リエゾン精神看護	1)リエゾン精神看護活動
評価	筆記試験 課題レポート	
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健(メヂカルフレンド社) 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 (メヂカルフレンド社) 看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術(メヂカルフレンド社)	
備考	精神保健福祉センター 見学	

科目名	講 師		単位数	1
精神障害者の事例演習		小泉 幸子	時間数	15

科目目的 ： 精神に障がいのある人を統合的に理解し、看護を実践するための基礎的知識を学

科目目標 ： 既習の知識を統合し、精神に障がいのある人の理解と看護の展開の方法を理解できる。

講義回数	学 習 内 容	
1回	1. 精神障害者の看護過程の特徴	
2～7回	2.精神障害者の特徴を踏まえて 情報の整理、分析・解釈	1)情報収集 (1)生活障がいをもつ人の情報収集の視点 2)分析・解釈 (1)11の機能的健康パターンを用いた情報収集・分析・解釈 (2)考えられる問題の抽出 (3)考えられる問題の統合 (4)関連図 3)看護計画立案 (1)看護目標 (2)援助計画 4)評価の視点と方法
評価	筆記試験 課題レポート	
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 (メヂカルフレンド社) 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 (メヂカルフレンド社) ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断(ヌーヴェルヒロカワ) アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断(医学書院)	
備考		